

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

平成30年度 第10回 会計実務検定試験

財務諸表分析

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、問題は開いてはいけません。
2. 解答用紙の指定欄に試験場校名・受験番号を記入しなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 試験は「始め」の合図で開始し、「止め」の合図があったら解答の記入を中止し、ただちに問題を閉じなさい。
5. 制限時間は90分です。

【1】 次の文章のうち、正しいものには○を、誤っているものには×を解答欄に記入しなさい。

1. 売上高販売費及び一般管理費率は、高い方が望ましい。
2. 継続的に当座比率（酸性試験比率）が高すぎる場合は、必要以上に資金を有しており、資金を有効に活用していない金余りの状態にあると考えられる。
3. 固定資産回転率は貸借対照表のみで計算される。
4. リース債務の返済は、財務活動によるキャッシュ・フローとされる。
5. 使用資産経常利益率は、長期の安全性をみる指標である。

【2】 メーカーから商品を仕入れ、それを小売店に販売する卸売業（商社）を営むT社の要約損益計算書は〈資料〉のとおりであった。この損益計算書からわかるように、売上総利益を計算した段階から赤字である（売上総損失50百万円）。そこで、T社は、来期に向けて下の(1)～(6)の〔経営改善策〕を検討している。それぞれの改善策を行ったときに、損益計算書のどの段階の損失に影響が出るかを、影響を受ける最初の損失の記号（損益計算書中のAからD）で答えなさい。

〈資料〉

T社の要約損益計算書

（単位：百万円）

| | |
|------------|-------|
| 売上高 | 2,100 |
| 売上原価 | 2,150 |
| A 売上総損失 | 50 |
| 販売費及び一般管理費 | 700 |
| B 営業損失 | 750 |
| 営業外収益 | 80 |
| 営業外費用 | 100 |
| C 経常損失 | 770 |
| 特別利益 | 30 |
| 特別損失 | 60 |
| D 当期純損失 | 800 |

（注）税金は考慮しない。

〔経営改善策〕

- (1) 業績が良い子会社の株を売却し、売却益を計上する。
- (2) T社で長年使用していた営業用トラックを売却し、多額の売却益を計上する。
- (3) 余裕資金で、銀行からの短期借入金の返済を早める。
- (4) パート社員で雇用していた事務員の人数を減らす。
- (5) 仕入価格を抑えるために、メーカーに値下げを依頼する。
- (6) 従業員の出張旅費や消耗品の購入を抑える。

【3】 〈資料〉に示した財務諸表により、次の問1、問2に答えなさい。

問1 製造業を営んでいるA社の前期および当期の安全性に関するアからカの分析指標を求めなさい。

- ア 総収益支払利息比率
- イ 固定長期適合率（※その他の包括利益累計額合計は含まない）
- ウ 売上高営業キャッシュ・フロー比率
- エ 総資産負債比率
- オ 流動負債営業キャッシュ・フロー比率
- カ 流動比率

（注意事項）

1. アからカの数値は算出結果のみを解答すること（計算式は不要）。
2. 答えは、%の小数第2位を四捨五入し、第1位まで解答すること。ただし、小数第1位の数値がないときは、例えば、10.0%のように解答すること。
3. キャッシュ・フロー計算書の「現金及び現金同等物」は、貸借対照表のその他の資産の一部も含むため、「現金及び預金」の金額と必ずしも一致しない。
4. マイナスの場合には、数値の前に「△」をつけること。例えば、マイナス10.1%の場合は、「△10.1%」と解答すること。

問2 問1の指標から次の視点に基づき、前期と当期の安全性について判断しなさい。なお、文章中の（1）から（6）には、問1のアからカの最も適切な指標名を記号で選び、（7）は選択肢から選んで記入しなさい。

《短期の安全性》

銀行家比率とも呼ばれている（1）を見てみると当期のほうが高く、望ましいとされる200%を超えている。この比率が低いとたとえ利益が出ていても黒字倒産の恐れがあるとされている。

次に、企業のキャッシュの流れから見てみると、売上高がどのくらい資金的貢献を経常的な事業活動にしたかが示される（2）は当期のほうが高い。また、流動負債の返済に対して、営業活動によるキャッシュ・フローがどれだけ貢献をしているかを示す（3）は前期のほうが高い。

《長期の安全性》

銀行や仕入先などの債権者への保証が安全であるかどうか判断される（4）を見てみると、当期のほうが低い。さらに、固定資産を調達するための資金を安全な源泉である株主資本と固定負債で、どのくらいまかなっているかをみる（5）は当期のほうが低く、望ましいとされる100%以下になっている。また、企業の収益獲得活動の負債への依存度が判断できる（6）を見てみると前期のほうが低い。

総合的に判断すると（7 前期・当期）のほうが安全性に優れている。

問題を読みやすくするために，このページは
空白にしてあります。

〈資料〉は次ページ③④にあります。

〈資料〉

A社の要約連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前期 | 当期 | | 前期 | 当期 |
|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|
| 資産の部 | | | 負債の部 | | |
| 流動資産 | | | 流動負債 | | |
| 現金及び預金 | 570,000 | 662,000 | 支払手形及び買掛金 | 132,000 | 204,000 |
| 受取手形及び売掛金 | 39,000 | 106,000 | 短期借入金 | 100,000 | 140,000 |
| 有価証券 | 239,000 | 333,000 | 未払法人税等 | 52,000 | 62,000 |
| 棚卸資産 | 40,000 | 39,000 | 賞与引当金 | 52,000 | 52,000 |
| 繰延税金資産 | 7,000 | 300 | その他 | 162,000 | 126,000 |
| その他 | 26,000 | 62,600 | 流動負債合計 | 498,000 | 584,000 |
| 貸倒引当金 | △ 400 | △ 400 | 固定負債 | | |
| 流動資産合計 | 920,600 | 1,202,500 | 社債 | 1,000 | 1,000 |
| 固定資産 | | | 長期借入金 | 23,000 | 19,000 |
| 有形固定資産 | 88,200 | 85,900 | その他 | 14,000 | 15,000 |
| 無形固定資産 | 10,000 | 12,800 | 固定負債合計 | 38,000 | 35,000 |
| 投資その他の資産 | 177,300 | 179,900 | 負債合計 | 536,000 | 619,000 |
| 固定資産合計 | 275,500 | 278,600 | 純資産の部 | | |
| | | | 株主資本 | | |
| | | | 資本金 | 200,000 | 220,000 |
| | | | 資本剰余金 | 13,000 | 33,000 |
| | | | 利益剰余金 | 510,000 | 670,000 |
| | | | 自己株式 | △50,000 | △50,000 |
| | | | 株主資本合計 | 673,000 | 873,000 |
| | | | その他の包括利益累計額 | △14,000 | △ 13,000 |
| | | | 非支配株主持分 | 1,100 | 2,100 |
| | | | 純資産合計 | 660,100 | 862,100 |
| 資産合計 | 1,196,100 | 1,481,100 | 負債純資産合計 | 1,196,100 | 1,481,100 |

A社の要約連結損益計算書

(単位：百万円)

| | 前期 | 当期 |
|-----------------|---------|----------|
| 売上高 | 600,000 | 550,000 |
| 売上原価 | 184,000 | 190,000 |
| 売上総利益 | 416,000 | 360,000 |
| 販売費及び一般管理費 | 190,000 | 170,000 |
| 営業利益 | 226,000 | 190,000 |
| 営業外収益 | 14,500 | 28,000 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 4,000 | 8,000 |
| その他 | 4,300 | 3,600 |
| 営業外費用合計 | 8,300 | 11,600 |
| 経常利益 | 232,200 | 206,400 |
| 特別利益 | 5,410 | 5,180 |
| 特別損失 | 1,500 | 400 |
| 税金等調整前当期純利益 | 236,110 | 211,180 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 70,800 | 63,500 |
| 法人税等調整額 | 8,700 | △ 13,000 |
| 法人税等合計 | 79,500 | 50,500 |
| 当期純利益 | 156,610 | 160,680 |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 | 200 | 100 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 156,410 | 160,580 |

A社の要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前期 | 当期 |
|------------------|---------|---------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 70,000 | 80,000 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △31,000 | 20,000 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △3,000 | △14,000 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 36,000 | 86,000 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 428,000 | 464,000 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 464,000 | 550,000 |

【4】 D社の次の〈資料1〉〈資料2〉をもとに、次の文章の（ 1 ）から（ 8 ）には、適当な語句を、下の〔解答群〕のなかから選び、記号で答えなさい。また、（ 9 ）は解答用紙のなかの記号を○で囲みなさい。なお、△印はマイナスを示している。

キャッシュ・フロー計算書とは、企業の一定期間における資金の流れを、一定の活動区分別に表示する計算書である。

（ 1 ）活動によるキャッシュ・フロー区分を、間接法で作成すると、キャッシュの変動を伴わない（ 2 ）、売上債権の増加額、仕入債務の減少額などが記載される。この区分がマイナスからプラスに推移したD社は、損益計算書情報とあわせると、本業の活動が（ 3 ）したことを示している。

（ 4 ）活動によるキャッシュ・フロー区分には、設備投資に係わる支出などが記載される。この区分が2期続けてマイナスのD社は、継続して設備投資を積極的に進めていると考えられる。

（ 5 ）活動によるキャッシュ・フロー区分には、（ 6 ）の発行による収入、配当金の支払い、銀行への（ 7 ）の返済のための支出などが記載される。

なお、当期のフリー・キャッシュ・フローは（ 8 ）百万円となる。よって、D社の当期の資金繰りは、（9 ア. 良好な状態 イ. 良好でない状態） であると考えられる。

〔解答群〕

| | | | | |
|----------|------------|------------|-----------|-------|
| ア. 営業 | イ. 投資 | ウ. 財務 | エ. 減価償却費 | オ. 改善 |
| カ. 悪化 | キ. 株主 | ク. 借入金 | ケ. 金融 | コ. 社債 |
| サ. 4,200 | シ. △27,800 | ス. △53,400 | セ. △6,400 | |

〈資料1〉

D社キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前期 | 当期 |
|---------------------|---------|---------|
| （ 1 ）活動によるキャッシュ・フロー | △200 | 25,600 |
| （ 4 ）活動によるキャッシュ・フロー | △45,000 | △21,400 |
| （ 5 ）活動によるキャッシュ・フロー | 73,400 | △32,000 |
| 現金及び現金同等物の増減額（△は減少） | 28,200 | △27,800 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 32,400 | 60,600 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 60,600 | 32,800 |

〈資料2〉

D社損益計算書より一部抜粋

(単位：百万円)

| | 前期 | 当期 |
|------|---------|---------|
| 売上高 | 300,000 | 310,000 |
| 営業利益 | 4,650 | 6,000 |

【5】 株式投資に関する〈資料〉について、次の問1，問2に答えなさい。

〈資料〉

| | X社 | Y社 |
|---------------|------------|-----------|
| 株価（1株あたり） | 1,500円 | 1,000円 |
| 発行済株式総数（期中平均） | 200百万株 | 25百万株 |
| 当期純利益 | 18,000百万円 | 650百万円 |
| 純資産 | 120,000百万円 | 16,000百万円 |
| 配当金総額 | 8,000百万円 | 400百万円 |

※純資産＝株主資本とする。

※株を購入する際の手数料は考えなくてよい。

問1 X社とY社の株主資本当期純利益率、株価純資産倍率と株価収益率、配当利回りと配当性向を計算しなさい。なお、計算上端数が生じた場合は、倍、%ともに小数点第2位を四捨五入し、第1位まで解答すること。ただし、小数第1位の数値がないときは、例えば、10.0%のように解答すること。

問2 次の会話文の（①）から（⑤）に当てはまる語句を〔解答群〕の中から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

Aさん：「先日、仮想通貨についてのニュースを見たよ。価格が1週間でかなり高くなったみたいだね。」

Bさん：「うん、私もそのニュースを見たよ。でも価格変動が激しいのと、仮想通貨についての知識も乏しいので、投資するには危険性（リスク）があるかな。」

Aさん：「そうだね。企業について情報収集し、しっかりと分析してから株などを購入したいね。分析する上で、参考になる指標はあるかな。」

Bさん：「うん、あるよ。例えば、株主資本当期純利益率や株価純資産倍率、株価収益率などの指標を参考にすると良いよ。経済新聞などでは、株主資本当期純利益率を（①）、株価純資産倍率を（②）、株価収益率を（③）と示すよ。③の指標で比較すると（④）社のほうが、市場の評価が高いよ。」

Aさん：「そうなんだ。」

Bさん：「株を購入する人は、その目的によって投機家と投資家と呼ばれるよ。投機家は、短期間で株式を売出し利益（キャピタルゲイン（差益利得））を得ようとする人、投資家は、企業の将来性や配当による利益（インカムゲイン）を目的に長期間、株を保有する人のことを言うよ。」

Aさん：「デイトレーダーと呼ばれる人は、投機家にあたるのかな。」

Bさん：「うん。でも、危険性（リスク）が高いし、個人的には、企業の業績や将来性に期待して、長期で投資することをお勧めするよ。配当がしっかり出ている企業も、個人投資家には人気があるよ。」

Aさん：「配当利回りを考えて、株を購入する場合には、（⑤）社のほうがいいね。」

Bさん：「そうだね。投資家は、保有している資金を有利なものに投資しようとするから、配当利回りが銀行の定期預金の利率よりも高ければ、定期預金にするより、株を購入したほうが良いよ。」

Aさん：「でも、株価は上下するから、元本割れもあるよね。」

Bさん：「うん。その危険性（リスク）を考慮に入れて、投資する必要があるかな。」

Aさん：「うん、ありがとう。投資する前に、しっかりと企業の財務諸表を分析してみるよ。」

Bさん：「そうだね、ここに会計学を学ぶ意義があるよ。」

〔解答群〕

| | | | |
|---------|---------|--------|--------|
| ア. X（社） | イ. Y（社） | ウ. ROA | エ. PER |
| オ. BPS | カ. ROE | キ. PBR | ク. EPS |

